

視覚伝達デザイン学科

鉛筆デッサン (3時間)

入学試験問題

【問題】

与えられたモチーフ(麻糸)を手であやつり、そこで起こるモチーフの特性と手を描きなさい。

【条件】

1. モチーフの麻糸は切ってはならない。
2. 結束用の糸ははずすこと。
3. 結束用の糸と包装材はモチーフではない。
4. 答案用紙は縦横自由。
5. 目隠しカードの上に、画面の「上」を示す矢印「↑」を必ず書くこと。

【出題意図と評価のポイント】

手で触ると目で見ただけでは分からないことに気がきます。同じような色やカタチでも、太かったり細かったり、硬かったり柔らかかったり、ゴツゴツしていたりツルツルしていたり、ピンしていたりグタツとしていたり。それを摸る手にも表情が生まれます。あなたがそこで見つけた出来事を人に伝える手段の一つにデッサンがあります。参考作品の描写から「見てみて! こんなことを見つけたよ!」という声を楽しんでください。



【配布物】

1. 試験問題
2. 答案用紙 (B3両用紙) × 1枚
3. 麻糸 × 1個
4. 下書き用紙 (B4上質紙) × 2枚

デザイン (3時間)

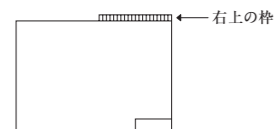
入学試験問題

【問題】

与えられた素材(紙粘土)をへらと手で自由に変形、加工しなさい。

それらによってできた形を使って「感情」のイメージを色彩構成しなさい。

画面右上の与えられた枠内に20字以内でどのような感情を描いたか記入しなさい。



【条件】

1. 使用する色数は自由。
2. 描画面面は与えられた紙面全体とする。ただし余白は白地とみなすので、全面を塗りつぶさなくても良い。
3. 答案用紙は横長で使用すること。
4. 右上枠内の文字書き込み部分は塗りつぶさないこと。
5. 包装材はモチーフではない。

【配布物】

1. 試験問題
2. 答案用紙 (B3ケント紙) × 1枚
3. 紙粘土 × 1個
4. へら × 1本
5. 下書き用紙 (B4上質紙) × 3枚



【出題意図と評価のポイント】

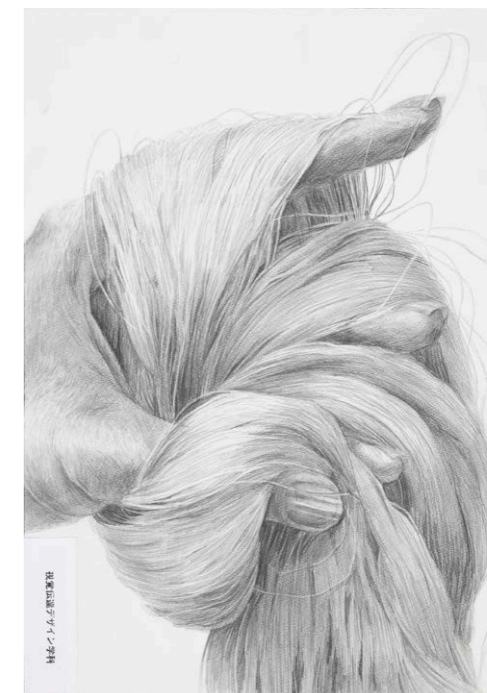
この問題は与えられた紙粘土の変形や加工を通して、各人が「感情」のイメージを発見し、それらを用いて自由に色彩構成することを求めている。感情は心の状態なので物理的、具体的な「かたちそのもの」はない。ここでは粘土への具体的な行為(例えばたたく、押さえるなど)、または偶然発見したかたち(例えばへらによってできた鋭いギザギザなど)の中から各人の感情の具体的な状態や状況を見だし、それをモチーフとして色彩を用いて平面上に再構成することが求められている。与えられた素材への操作を通して見えなかった(感情)を可視化(イメージ)する力を見ることを意図している。

採点は左記の出題意図に基づき、画面右上に記された作者によるタイトルを丁寧に読みながら、作者がどのような感情のイメージを構成したか、それが見るものに伝わったか、をまず見ていった。さらに採点においてはその多様性を尊重しつつ、着眼点、観察のユニークさ、空間(画面)構成のダイナミズム、リアリティ(表現力)、色彩(美しさや適切な使用)などを基準に総合的な視点から行った。



教員コメント

糸の揃がまるで人形のように見えます。「ハダうてしよう!」と差し出した手は、大切なものを見せたい作者の素直な目線と自信があふれています。手と糸が作る空間が心地よい作品です。



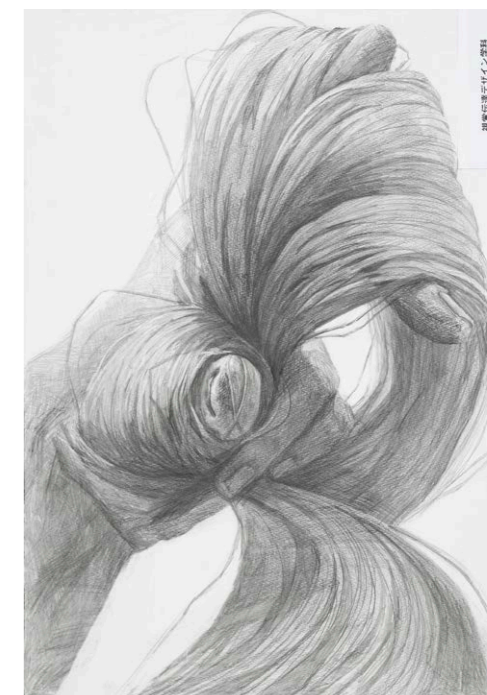
教員コメント

糸から布が作られます。この作品からは手が布を纏うように見えてきます。まるで羽衣を纏っている織姫のようですね。糸が生み出す柔らかな線が生かされています。



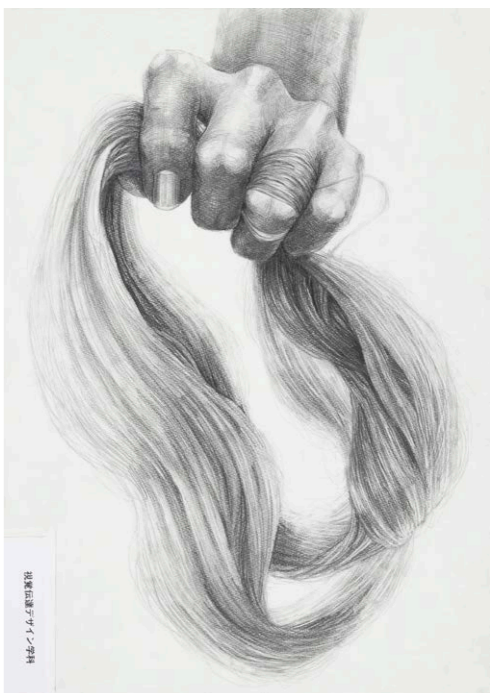
教員コメント

糸の束が作る張力と緊張感を表すために、どうしてもこの構図と両手が必要だったのでしよう。こんがらがらそうな糸を解す行為と麻糸という素材の特徴が引き出されています。



教員コメント

糸が作る一瞬の美しい空間を、写真で撮ったように見える迫力のある作品です。親指に引っかかった糸と束の作るおどろかな空間の対比が目引きます。



教員コメント

まるで駅伝の選手が棒を渡す瞬間のようです。スピードに乗り風になびく棒をガシッと掴んだ手が、思いを込めて次の走者に手渡す勢いまで伝わってくるようです。



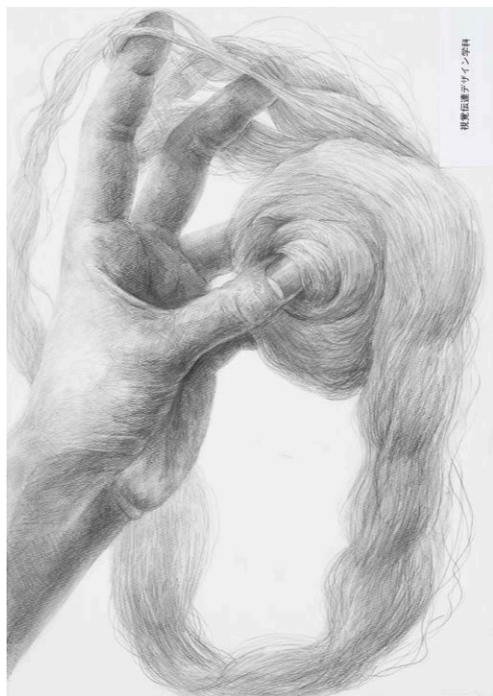
教員コメント

このモチーフからディズニーのアニメーション『塔の上のラプンゼル』を想起した作品はとて多く見られました。これはその中でも秀逸な作品です。手に絡まる巻き毛から物語が生まれそうです。



教員コメント

束になったり滑ったり絡まったりひねったり、手の周りを麻糸が遊んでいるようにも見えます。モチーフと対話をしてじっくり観察したからこそ描ける作品です。



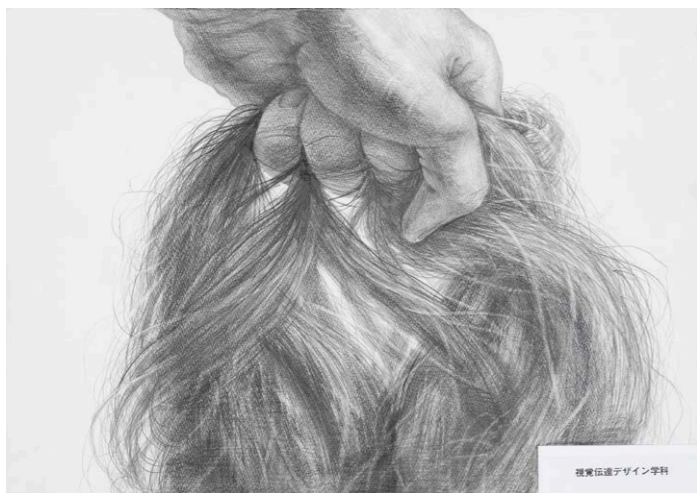
教員コメント

糸車を回すクルクルという音が聞こえてくるような作品です。長い麻糸というモチーフだからこそ生まれるカタチの面白さを、手の行為と合わせて引き出しています。



教員コメント

上から掴む行為は、まるで子どもの頭に髪の毛を引っ張り合ってケンカをした時を思い浮かべました。効果的な光の表現から、引き上げる力を感じる力強い作品です。



教員コメント

見事に素材感が描かれています。石を掴む手と、砂を掴む手と、粘土を掴む手の表情は違います。ガシッと糸の束を掴んでいるこの手からは、かき分けた指の間の感覚まで伝わってきます。



教員コメント

萌黄色に染められた麻糸の透明感は独特な色彩を生みます。束にした時のボリュームと重みがゆるやかな曲線になり、流れになります。束ねるという行為に注目した作者の意図が伝わってきます。



教員コメント

木綿・絹・毛糸・テロン・ポリエステル、そして麻など。素材を気にする人はその強さや厚み肌触りを確かめますね。この手はそれを探っているように見えます。





どんどん悲しみがたまっていく。

教員コメント

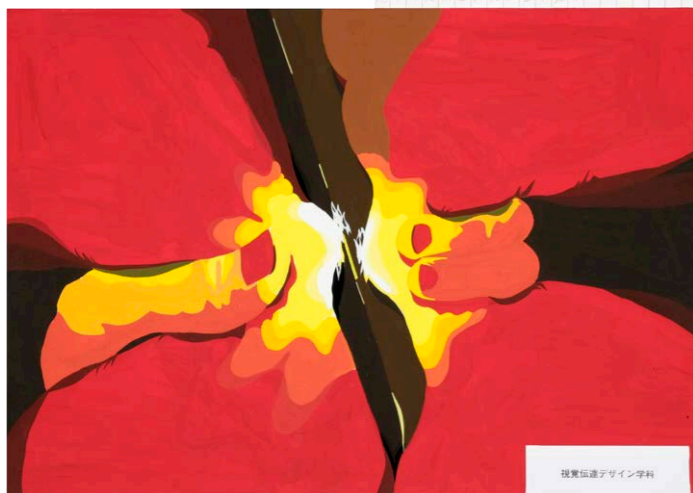
粘土に穿たれた指のへこみが、溜まっていく涙のようなイメージを醸し出し、歪んだ粘土を照らす上部からの光が、青いモトーンで悲しみの感情を演出している。



押し潰されそうな孤独

教員コメント

ドン！と押し潰された粘土の塊が、プレスシャーで歪んだ顔のようにも見える。左右に大きく空いた空間と逆光の効果が孤独感を感じさせ、大胆で見事な作品となった。



怒りの感情を必死にこらえる

教員コメント

粘土に突き刺したへらをグッと指で押さえている様子が描かれている。内側から発光するような色使いが、灼熱の溶鉱炉の鉄のようでもあり、怒りの感情が伝わってくる。



悲しみに押しつぶされ
あふれる感情

教員コメント

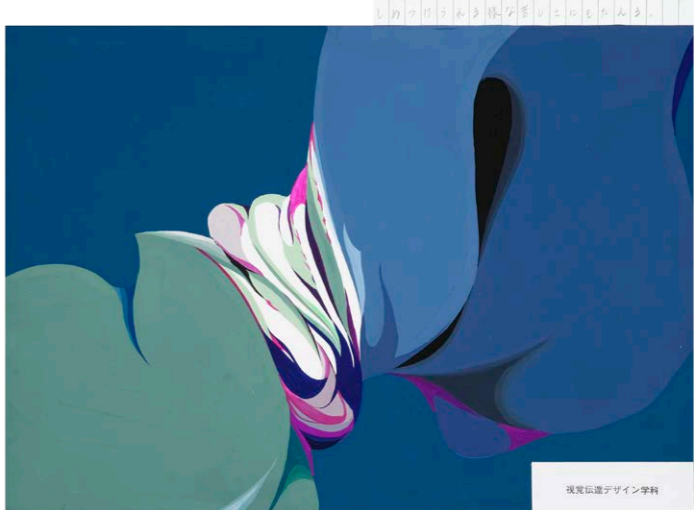
へらを強く握った手の拳と、紙粘土に深く突き刺してかたちを崩そうとするへらの力を感じる構成だ。血脈のような黄色の筋には、「押し潰される」ことに抗う気持ちが表れている。



ぐつぐつと煮えたぎるような
激しいいかり

教員コメント

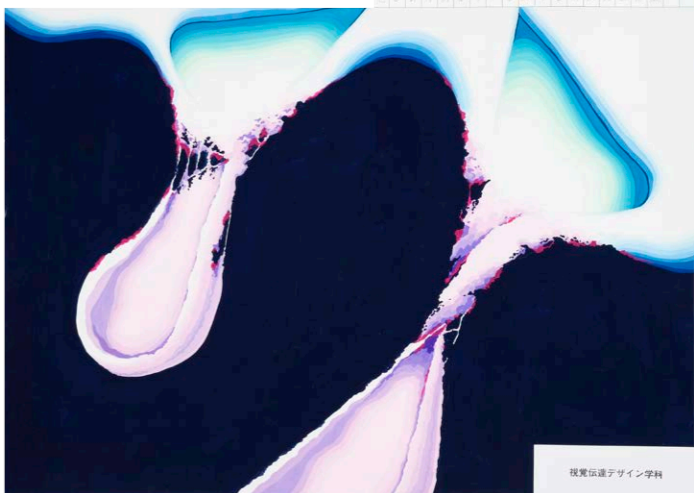
紙粘土を思いきり握り潰そうとする行為に、怒りの感情や熱をイメージしている。「煮えたぎる」や「ぐつぐつ」という言葉と、大小の丸いかたちを配置したコントラストのある画面が効果的だ。



しめつけられる様な
苦しさにもだえる。

教員コメント

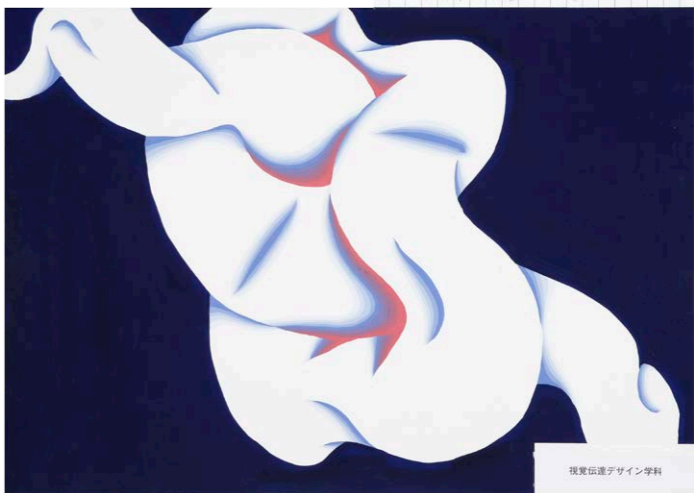
究極までねじって今にもちぎれそうな状態を「しめつけられる」と「もだえる」という二つの言葉にしている。ブルー系の配色を用いて窒息する「苦しさ」を感じさせる迫力ある構成となっている。



悲しみのあまり、
じわりとあふれ出た涙

教員コメント

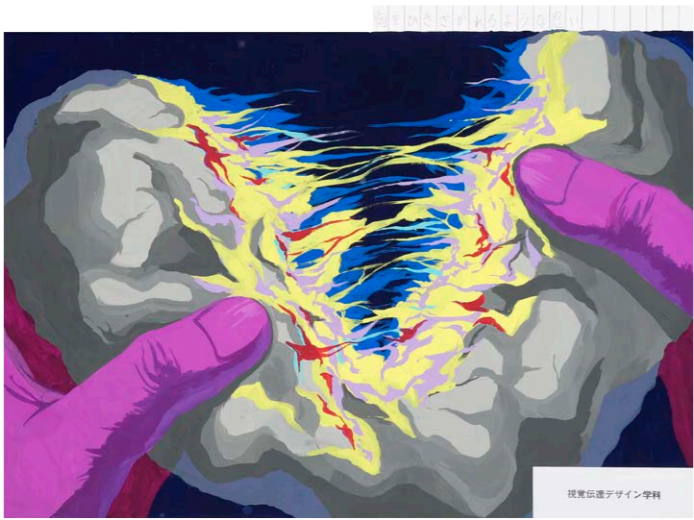
粘土の切れ目をよく観察し、ちぎれていく様子を作者の思いを上手く重ねたデザインである。色彩も繊細な美しい作品である。



想いが伝わらないもどかしさ

教員コメント

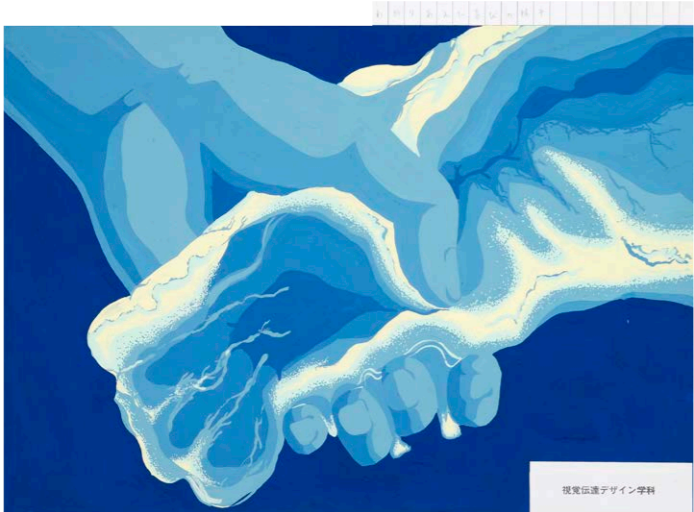
粘土の素材の持つ柔軟性から美しい曲線を抽出したユニークなデザインである。カタチと色彩の調和が取れた美しい作品である。



胸をひきさかれるような思い

教員コメント

大変大胆なデザインである。粘土のハートを真っ二つにもきって感情を表した。漫画のストーリーのワンシーンのようでもある。



わかりあえた喜びの握手

教員コメント

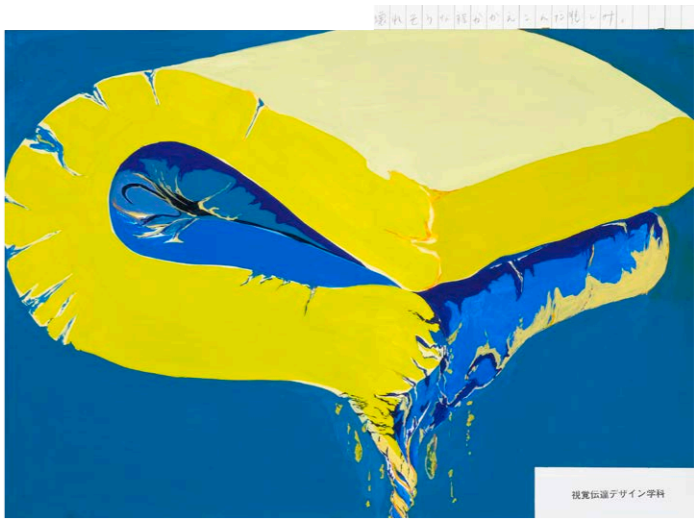
粘土の手は誰の手なのか、と相手を想像させられる。大変前向きな作者自身の感情を表現した素晴らしい作品である。



こらえきれず溢れ出る怒り

教員コメント

握ってえぐり取られた粘土と、燃えるような赤色に「溢れ出る怒り」が表現され、後ろの青色に「こらえていた」理性を感じ取れる。



壊れそうな程かかえこんだ悲しみ。

教員コメント

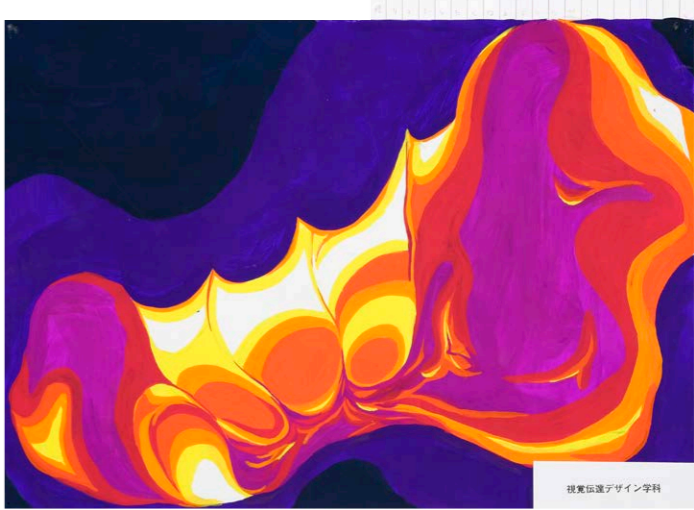
「壊れそう」な感じと「悲しみ」を粘土のひび割れの質感やこぼれ落ちる状態に上手く転換して表現している。



こらえきれない怒りが大噴火する

教員コメント

上へと舞い上がるひび割れた粘土、そびえて赤い竜巻のような情景が「こらえきれない怒り」と「大噴火」を上手く表現している。



握りつぶしたくなるような怒り

教員コメント

手形の部分を暖色系、周辺に寒色系を配置して対比させることで、いまだ握り潰していないが怒りは頂点に達していることを表現している。